

2009年3月期第3四半期 決算説明会 Q&A (要旨)

【2009年3月期第3四半期決算について】

Q：第3四半期の粗利率は比較的高いが、大きな開発案件で利益率が高いものがあったのか？

A：特殊な案件があったというわけではなく、受注を順調にこなしていき、社員の稼働率も高く保てた結果としてこうなった。

【2009年3月期通期予想について】

Q：今回の100億円の通期売上高下方修正のうち、証券業向けが60億円だが、野村ホールディングス向けと、それ以外の証券業向けの割合はそれぞれどれくらいか。

A：それぞれ半分ずつくらいと見ている。

Q：資料P34の収支モデルについて、売上原価が前回比△90億円のうち、労務費と外注費で△30億円となっているが、それ以外は何か？

A：経費削減の効果と、商品販売の減少に対応する仕入の減少などが影響している。

Q：新規受注見込み案件のパイプラインの状況はどうなっているか。受注確度の変化は？

A：保険向けやその他産業向けについては、想定の範囲内で案件は動いている。急激に仕事がなくなってしまうという状況にはなっていない。

Q：4Qの受注が厳しくなるということだが、すでに見込み案件がキャンセルになるなど、実際減っているのか、もしくはまだ懸念の段階なのか？ 証券業以外の動向は？

A：証券業向けは不要不急のテーマは行わないなど、実際に受注が減っている。証券業向け以外については厳しい状況であるが、パイプラインの中には顧客にとって進めなければならない必要なテーマも多く、目に見えて受注が止まるということは起きていない。

Q：過去2年のあいだ積極的に投資をおこなった結果、無形固定資産が積み上がってきているが、需要環境が激変していることで、事業計画とのずれがでてくる可能性があるか？

A：無形固定資産は、STAR、T-STAR、BESTWAYなどの共同利用型システムサービスが中心だが、これらのサービスは現状それほどひどい状況にはなっていない。事業の動向を見ながら資産性の評価は継続していくが、現在非常に心配な状態ではない。

・本資料は、2009年3月期第3四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

【2010年3月期以降について】

Q：来期の業績について、減収リスクはどれくらいあると見ているか。

A：来期の業績については、現時点では、まだビジビリティは低い。保険業向けやその他産業等向けなどである程度見えている案件もあるが、証券業向けがどれくらいの需要があるかまだ見えていない。

Q：主要顧客の運用サービスで大きな価格交渉、規模の縮小の話はあるか？来期の運用サービスの見通しは？

A：厳しい経営環境にある顧客、特に証券業界を中心に減額の要請はある。もともと常に顧客からコスト削減の要請はあり、常に要請に答えられるように努力している。その場合も単なる値下げに応じることはなく、具体的なシステムの手入れが必要。数年計画がかりになるが、コスト削減を実現していこうというプロジェクトはあった。一方で、顧客を増やすことによって、運用全体の売上を成長させようとしている。コストダウンを実現すると同時に顧客の積み上げを果たしていきたい。

Q：来期のかんぽ生命向けの見通しは？

A：保険業向け全般についての表現になるが、いろいろと予定している案件について、全て獲得できているとまでは言えないものの、ほぼ想定どおりに進んでおり、大きなマイナスは考えていない。来期もうまくいけば当期比で伸びることもあるだろう。

Q：来期、コストはまだ減らせるのか？ 来期、売上横ばいなら減益になる構造なのか、あるいは減収になっても増益を果たせる費用構造になっているのかを知りたい。

A：今期は第1四半期に販管費が高い水準からスタートし、危機を感じて絞り始めて結果が出るまで遅れが生じた。来期、販管費のコントロールはスタート時点からできる可能性がある。一方で、不況期でも人の採用はしっかり続ける予定で人件費コストが上がる要素もある。来期は、今期以上に販管費、外注費、研究開発費等精査しながらやっていくということになる。実際の額はまだ精査中。

【その他】

Q：野村ホールディングスがリーマンおよびインド子会社を買収したが、NRIにどう影響するのは10月時点では分からないとのことだった。それから3ヶ月たって、少しは見えてきたのか？

A：結論から言うとあまり状況は変わっていない。もともと野村の海外のシステムはインハウスで開発・運用されており、NRIが主担当していたわけではない。またグローバルホールセールはNRIの仕事の大きな部分ではない。ただ、インドのシステム子会社はもともとリーマンのシステムを担当しており、将来的にNRIの仕事の一部がそちらに移っていく可能性はゼロではないが、ま

・本資料は、2009年3月期第3四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。
・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

だ具体的な話にはなっていない。

また今後システムの接続・移管などが起きてきて、一時的な増加の可能性はある。

以上

・本資料は、2009年3月期第3四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。